

ハワイ海外研修を終えて

福島県立医科大学附属病院 後期研修医 若山 隆

私がこの研修に応募したのは、2009年にニュージーランド・オーストラリア視察を行ったことが背景にあります。私は福島県立医科大学の地域家庭医療部に所属する後期研修医ですが、ここでは研修1年目に家庭医療先進国に赴き、現地の医療を体験できるという素晴らしい計らいがあります。英語でのコミュニケーションは不慣れでなかなか思うようにいかず、歯がゆい思いをすることもありましたが、それよりも得られるものが大きかったです。その感想は省くとして、再び海外での医療・医療人と触れる機会を手にすることができたのは幸いでした。

楽しい時間がたつのは早いもので、あっというまの1週間でした。ハワイ島ヒロでの診療所研修、家庭医療指導医の診療風景を直に体験できたことが一番印象に残っています（詳細は研修報告のページ参照）。NPO法人が運営するHamakua地方の病院で奮闘するスタッフの話聞いたこともよい刺激になりました。そこはハワイの僻地にある病院で、医療資源不足、貧困者・障害者救済のためにNPOが関わっています。NPO法人ならではの工夫（例えば、HbA1cの低下、微量アルブミン尿の測定など医学的根拠のある目標達成に伴う医師の報酬増加制度、患者から医療機関が評価され、改善を促される制度）により、医療過疎での医師のモチベーション向上、患者へのサービスの向上を行っているそうです。アメリカのPrimary Careもけっして順風満帆ではなく、貧困者に対する医療、地方のPrimary Careの担い手不足、Drug User、若年層の妊娠、予防医療の浸透不足 etc 多くの問題を抱えていることが分かりました。しかし、困難な中でもよりよい医療を模索しながら、前向きに取り組む医療者たちの姿が印象的でした。日本でも、Primary Careを海外のどの国にも見劣りしない質の高いものにするべく、努力を続けていかねばならないという思いを新たにしました。

今回の海外研修ではいくつかのハワイと日本の医療の違いに気がつきました。例えばハワイではICの仕方はかなり詳しく、merit・demeritをしっかりと伝え、治療方針も患者の意思・経済状況を踏まえ柔軟に対応していると感じました。国民皆保険ではないという点で、医療者もかなり経済面を考慮しながら医療を行わねばならないという苦労がありました。日本は国民皆保険制度で、医療単価が安いこともあって、コストの面をあまり気にしないで医療ができていると思います。各種検査も、日本は設備が充実しているので、簡単に行うことができます。人口100万人当たりのCT、MRI設置数も、OECD（経済協力開発機構）

加盟国平均の4倍にもなります（OECDインディケータ2009年度版）。また、日本の患者は外来受診数がアメリカの4倍程度、医師1人あたりの診察回数も4倍になっているそうです。こまめな受診が癌の早期発見などに役立っているかもしれません。しかし、日本に過剰医療をもたらしているのではないかと懸念も懐きました。混雑する外来は、医師と患者双方になんのメリットにもなりません。

また、今後の日本のプライマリケアの担い手にも、医療コストに関する意識をもつことが必要なのではないかと思います。ある医療行為はかかるコストに見合うだけの利益があるのかを考える姿勢です。現在も増加し続ける医療費は大きな問題になっています。医療行為の一部は税金から支払われており、我々は社会に貢献するプロフェッショナルであるという立場から、有効に医療資源を使わなくてはなりません。しかし、過剰医療を行わないようにEBMを駆使し、薬の有効性を評価し、それを患者に説明できる医師が日本ではまだまだ少ないのではないかと思います。検査をどんどん実施し、たくさんの薬を処方すればそれだけ利益がえられる保険制度も過剰医療を促す一助となっていると思います。今後のプライマリケア医と医療制度の課題だと思います。

今回の研修を終えて、また海外の医療への興味が一層強まったのを感じます。といっても別に海外へでて医療をしたいというわけではありません。海外の医療にふれて初めて気がつくものがたくさんあり、そこから得られるものがとても大きいと思います。感想を読んでも下さった方にも海外研修への参加をぜひとも勧めたいです。英語に自信がなくても、医療への熱意と一握りの勇気があればきっと良い経験になると思います。僕も海外の医療に触れる機会があればまた行きたいと思います。

最後に、今回の医療人養成事業をサポートして下さった関係者の皆様、引率していただいた先生方、研修をさせてくださったハワイ大学の関係者の方々、診療所の先生方に感謝いたします。ハワイ大学の先生からJABSONでのスキルラボトレーニングの最後に、立派な研修修了証を頂いたときはとてもうれしかったです。また、家庭医療見学コースの引率をして下さった葛西先生、そして同じグループの研修医のみんなには大変お世話になりました。緊張感の中にも笑いの絶えない良い研修ができたのは、みんなのおかげです。時にはお酒を飲みながら語り合えたことが良い思い出です。

